

シンポジウム | 特別講演

## 教育問題シンポジウム

### 老年歯科医学の卒前教育の実態はどうなっている？

座長: 福島 正義(福島県昭和村国民健康保険診療所／新潟大学歯学部)

Sat. Jun 23, 2018 9:30 AM - 10:40 AM 第2会場 (1F 小ホール)

【略歴】

1978年 新潟大学歯学部卒業  
1982年 新潟大学大学院歯学研究科修了  
1982年 新潟大学助手・歯学部附属病院 (第1保存科)  
1986年 新潟大学講師・歯学部附属病院 (第1保存科)  
2001年 新潟大学助教授・歯学部附属病院 (総合診療部)  
2004年 新潟大学教授・医歯学系 (歯学部口腔生命福祉学科)  
2018年 福島県昭和村国民健康保険診療所歯科長  
日本老年歯科医学会終身認定医・終身指導医・理事  
日本歯科保存学会専門医・指導医・理事  
日本接着歯学会終身認定医・前会長  
日本歯科審美学会認定医・常任理事  
日本歯科理工学会DMSA

【抄録】

平成29年版高齢社会白書によると、高齢化率は27.3%に上っている。人類史上かつてない超高齢社会の到来に伴い、歯学教育における老年歯科医学教育の充実は急務である。教育問題検討委員会では、2015年に老年歯科医学教育基準を公表した。しかし、わが国の歯科大学・大学歯学部および歯科衛生士養成校における老年歯科医学教育に関する講義・実習の実施状況や教育基準の内容がどの程度教授されているかは不明であった。そこで、2017年に歯学生および歯科衛生士学生に対する老年歯科医学教育の実態を明らかにするためにWebアンケート調査を実施した。本シンポジウムでは学会誌に公表された今回の調査結果を解説する。さらに、2017年に歯学教育モデル・コア・カリキュラム (平成28年度改訂版) と歯科医師国家試験出題基準 (平成30年版) が相次いで公表されたことにより本学会の教育基準との整合性を確認し、これらの分析を総括して教育機関における教育体制のあり方を考察する。

### [S7-6]老年歯科医学の卒前教育の実態はどうなっている？ 老年歯科医学教育の学内体制のあり方

○川良 美佐雄<sup>1</sup> (1. 日本大学松戸歯学部顎口腔機能治療学)

【略歴】

1977年 日本大学松戸歯学部卒業  
1981年 日本大学大学院松戸歯学研究科修了 歯学博士  
1986～88年 ニューヨーク州立大学バッファロー校可撤性義歯補綴学講座客員研究員  
1997年 日本大学松戸歯学部歯科補綴学第一講座助教授  
2002年 日本大学松戸歯学部総合歯科診療学教授  
2005年 日本大学松戸歯学部顎口腔機能治療学講座教授 (講座名称変更)  
2003～07年 日本大学松戸歯学部附属病院長  
2015～17年 日本大学松戸歯学部学部長  
2017年4月から日本大学松戸歯学部特任教授  
2017年9月から学校法人日本大学理事  
日本補綴歯科学会専門医・指導医

日本老年歯科医学会専門医・指導医  
日本スポーツ歯科医学会認定医  
日本体育協会公認スポーツデンティスト

本学会誌に報告された老年歯科医学教育実態アンケート調査の自由記載において、老年歯科医学教育を実施するうえで困難な点として、「複数の科が縦割りのカリキュラムを行っており、老年歯科医学教育としての把握が困難である」という意見が最も多く寄せられている。このことから想起されるのは、老年歯科医学という学科目が存在していない大学があることである。アンケート結果では、29校すべてが老年歯科医学に関する講義を実施しているが、26校（89.7%）において、担当講座が複数にわたっていた。また、「高齢者歯科」あるいは「加齢歯科」など、高齢者に関わる名称が入っている講座が担当している大学は15校（51.7%）となっている。学科目としてカリキュラムが組まれていれば、担当講座が複数にわたっていてもその学習目標に到達できる。そこで学内における学科目取りまとめについて、学生第一の見地から意見を述べたい。